

2024 - 2025

12・1・2

展示案内 ——— vol. 779

東京国立博物館ニュース

TOKYO NATIONAL MUSEUM NEWS

へび〜なパワ〜を
み 巳たいの蛇!
じゃ

2025年

1月2日(木)より「博物館に初もうで」、開催!

今号のイチ推し! 自在蛇置物
じ ざい へび おき もの





【特集】

ヘビ〜なパワ〜を巳たいの蛇!

令和7年(2025)は巳年。ヘビは人間の生活圏の近くに生息する生き物ですが、鋭い目や大きな口、によるよろとした動きには独特のインパクトを感じる方も多いでしょう。そんなヘビに、私たちは古くから不思議なパワーをみだし、絵画や彫刻、工芸品に表してきました。この特集では当館に棲む魅力あふれるヘビたちが集結し、新年の訪れを寿ぎます!
(小野塚拓造、村瀬可奈)



ナーガ上のブツダ坐像
タイ・ロップリー出土
アンコール時代・12〜13世紀
三木榮氏寄贈

瞑想するブツダを守るヘビの神ナーガ。
頭が7つあります



胆松に白蛇
溪斎英泉筆 江戸時代・19世紀
朝日を浴びて、弁天様の使いとされるめでたい白ヘビが!によりり!



東京国立博物館
公式キャラクター
ユリノキちゃん



◎十二神将立像(巳神)
京都・浄瑠璃寺伝来
鎌倉時代・13世紀
鋭い眼差しはまるでヘビのよう。頭の上にもご注目!



すり ぼく しろう じょうこも よう
摺箔 白地鱗模様
江戸時代・18世紀
正三角形をつなげた鱗模様の能装束。ヘビや龍の役に着用されます

博物館に初もうで

日本のお正月を堪能してください!

お正月の恒例企画「博物館に初もうで」では、巳年にふさわしく、ヘビにまつわる作品をご紹介します。特集で皆さまをお迎えします。「新春イベント」も開催! 新年はぜひ東博にお越しください。

2025年
1月2日(木)
1月26日(日)

「新春イベント」を
予定しております。
詳しくは当館ウェブサイトをご確認ください。



(左上) 博物館虫譜 亀・蜥蜴・蝦蟇類 博物局編、栗本丹洲他画 原図:江戸〜明治時代・19世紀、製本:明治11年(1878)

お正月を 寿ぐ

新年を迎えるに際し、当館のお正月らしい名品や、華やかで縁起の良い作品を紹介します。

くろらくつる かめもん ちゃわん
黒楽鶴亀文茶碗
仁阿弥道八作 江戸時代・19世紀
本館8室



からおり きん じまつ ほ もよう
唐織 金地松帆模様
上杉家伝来
江戸時代・18世紀
本館9室
2025年1月2日(木)〜2月24日(月・休)



めいしえ どひやつけい
名所江戸百景・するがてふ
歌川広重筆 江戸時代・安政3年(1856)
本館10室
2025年1月2日(木)〜2月2日(日)



しやうりん ざ びやう び
●松林図屏風(→6ページ)
長谷川等伯筆 安土桃山時代・16世紀
本館2室(国宝室)
2025年1月2日(木)〜1月13日(月・祝)



※●は国宝、◎は重要文化財(重文)、○は重要美術品(重美)を表します。特に表記のないものは東京国立博物館蔵です。

特集

日本の伝統模様 「雪」

本館14室 2025年1月2日(木)～2月16日(日)

冬の到来を告げる「雪」の模様は、室町時代後期頃より工芸に表されるようになった日本独特の模様のひとつです。空から舞い降りる雪を形にした「はつれ雪」や「雪輪」、植物に降り積もる雪の情景をデザイン化した「雪持柳」「雪持笹」、西洋の自然科学の知識の導入によって雪の結晶が模様に表された「雪華文」。日本の工芸品に表されたさまざまな「雪」の表現を通して、自然から模様を生み出した日本らしい模様表現をご覧ください。

(小山弓弦葉)

銀杏文を散らした大胆なデザイン

どうぶく そめわけ じ いちよう ゆき わちらし もよう
◎**胴服 染分地銀杏雪輪散模様**
安土桃山時代・16～17世紀
石見銀山見立役、吉岡隼人が徳川家康より拝領

銀杏の葉と雪と一緒に
舞い降りる景色が模様
になりました



積もる雪と笹の美

さび え ゆきざさもん て ばち
錆絵雪笹文手鉢
虫明 江戸～明治時代・19世紀

白い釉薬で降り積もる雪を表現
しています



特集

遊牧のくらしとテキスタイル —バローチを中心に—

東洋館13室 11月12日(火)～2025年2月16日(日)

バローチとはイラン語派のバローチー語を話す人びとで、パキスタン、アフガニスタン、イランにまたがる地域を中心に暮らしています。遊牧をする人々は、山羊、羊、ラクダやロバとともに牧草を求めて、定住と移動を季節ごとに繰り返しながら、生活に必要な敷物や袋物を製作しました。バローチの暮らしに着目し、テキスタイルと遊牧生活との関わりとともに、織技法や文様の特徴についてご紹介します。

(沼沢ゆかり)

織りなす幾何学の妙

しきもの あか ちゃ じ だん ほし き か もん よう
敷物 赤茶地段星幾何文様
バローチ 20世紀前半

細かな幾何学文が美しい敷物です。組み立てたテントのなかに敷いたのでしょう



(拡大図)



美しさと機能が融合する袋

しおぶくろ しろ げ ちゃ じ び し き か もん よう
塩袋 白焦茶地菱幾何文様
バローチ 20世紀 小西明人氏寄贈

塩を保管した袋で、家畜に食べられないよう口をすぼめるようにつくっています



特集

おひなさまと日本の人形

本館14室
2025年2月18日(火)～3月23日(日)

こ きん び な
古今雛

末吉石舟作
江戸時代・文政10年(1827)
山本米子氏寄贈



拓本のたのしみ —明清文人の世界—

東洋館8室
2025年1月2日(木)～3月16日(日)

そう たく かん せ っ け い ざ ん じ
宋拓漢石經殘字

伝蔡邕筆 中国 後漢時代・熹平4年(175)
会期中巻替があります



(部分)

東洋館

鮮やかな彩りが目を引く優品

白釉刻線彩釉女面鳥身文鉢

シリア アイユーブ朝・12世紀

～2025年5月25日(日)

3室 西アジア・エジプトの美術

一般に「ラカビ手」と呼ばれる鉢で、ラカビとは「彩釉」を意味します。11世紀後半にエジプトで開発された人工の胎土(フリット胎土)は、12世紀にはシリア北西部からイラン中部へと広がりました。白くて丈夫な素地を得たことで、複雑な造形や色釉による華やかな装飾が可能となり、イスラームの製陶は大きく飛躍します。本作品は、素地に陽刻で女性の顔を持つ霊鳥をあらわし、上から錫白釉をかけて整え、青、藍、緑、黄、紫の色釉で彩った優品です。(三笠景子)



高貴な香りに満ちた紫禁城を想う

牡丹透彫青玉香薰

中国 清時代・18～19世紀 神谷伝兵衛氏寄贈

2025年1月2日(木)～3月23日(日)

9室 清時代の工芸

本器は、香を焚いて芳香を楽しむ玉製の容器です。中国では、はるか昔から美しく質の高い石を玉といって貴んできました。この玉は、青みがかった青玉とよばれるものです。全体に牡丹の文様がたくみに透かし彫りされているのは、隙間から香りが漂うための工夫です。本器は、紫禁城の後宮で用いられたものと思われます。后妃たちが居住する空間を、視覚と嗅覚で彩った情景が想像されます。

(猪熊兼樹)



本館

春日の神様が乗ってきた鹿

春日鹿曼荼羅図

室町時代・15世紀

～12月22日(日)

3室 仏教の美術—平安～室町

春日大社がある奈良公園一帯には多くの鹿がいます。それは、鹿が神の使いとして大切に護られてきたためです。春日大社の祭神である武甕槌命は、常陸国鹿嶋から鹿に乗って春日の地にやってきました。本作品はその様子を描きますが、神の姿はみられず、鞍に固定された櫛にある金色の円相で象徴的に表されます。鹿の足元には瑞雲があり、黒ずんでいますが当初は銀で描かれていたのでしょうか。丁寧に描きこまれた鹿の毛並みや鞍の装飾も見どころです。

(古川攝一)



名づけのセンスが光る、景光の最高傑作

●太刀 長船景光(号 小龍景光)

長船景光 鎌倉時代・元亨2年(1322)

2025年1月2日(木)～3月16日(日)

13室 刀剣



この太刀は、後の時代に刃わたりを短くしたことで、柄や鐔などの外装を装着すると、龍の彫刻が柄に入って隠れてしまい、図のように小さくみえることになります。結果的に生まれた特徴をあえて号の由来とした点は、誠に機知に富んでいるではありませんか。作者の景光は、備前国で栄えた長船派の刀工で、この太刀は、引き締まった線がつくる刃縁の模様(刃文)や、細かく整った板目模様の質感(地鉄)が鋭いイメージを与えます。龍の全身の姿は、ぜひ展示室でご覧ください。

左：部分図(外装装着時にみえる部分) 右：全図

(酒井元樹)

日本の天文学の礎を築いた人物

寺尾壽博士像

黒田清輝筆 明治42年(1909)

2025年1月2日(木)～4月6日(日)

黒田記念室



寺尾壽は、初代東京天文台長を務め、東京物理学校(現在の東京理科大学)の創設者に数えられる天文学者です。黒田は留学を控えた明治16(1883)年にフランス語を学んだ縁から、寺尾の東京大学在職25年の記念として同作を完成させました。洋画家・和田英作による肖像画も同時に制作され、天文台に贈られたことがわかっていますが、所在不明です。写真を用いずに本人をモデルとし、「大に博士の性格を表はさう」としたという黒田の発言は、師への敬愛を物語っています。(吉田暁子)

法隆寺宝物館

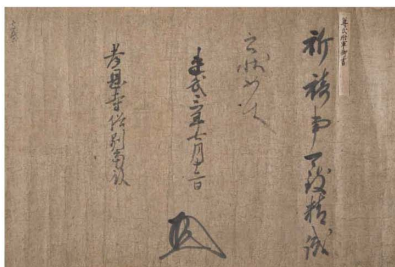
尊氏が祈禱を命じた背景を読み解く

古文書

足利尊氏等筆
南北朝時代・建武3年(1336)

2025年1月28日(火)～3月23日(日)

第6室 書跡—法隆寺の古記録—



(部分)

足利尊氏の御教書*など、4点の古文書を収めた巻物です。播磨国鶴荘(兵庫県揖保郡太子町)の孝恩寺の事務管理官(尾張権守 梶原景直)に宛てて、尊氏が花押を認めたこの御教書は、孝恩寺に対して誠心誠意の祈禱を命じたものです。

ときに、本作品にある建武三年七月十二日。前月の入京から十一月の『建武式目』制定の間にあって、戦火の渦中にいた尊氏の願意とは何か。神護寺の寺僧に宛てて祈禱を命じた尊氏の御教書(建武三年九月十二日、京都・神護寺蔵)などには、「天下静謐」の文字がみられます。(六人部克典)

*高位の者の意思を、従者が奉って出した文書(奉書)の一種のこと

平成館

繁栄を願う心を表す形

子持勾玉

大阪府堺市 カトンボ山古墳出土
古墳時代・5世紀

～2025年7月6日(日)

考古展示室



大型の勾玉1個の表面に、勾玉の小型省略形、すなわち子の形をつくり出したのが子持勾玉です。子持勾玉は、5世紀中頃から7世紀頃に日本列島で普及し、東北地方から九州地方まで幅広く確認できます。祭具として使用されたので、親子を象徴するかのような形状です。増殖に関する呪術的な遺物なのでしょう。本作品が出土したカトンボ山古墳(大阪府)では、石製模造品が大量に出土しました。なかでもこちらの子持勾玉は、親がふたつつく、かなり珍しい一品です。(河野正訓)

特別展「蔦屋重三郎 コンテンツビジネスの風雲児」

2025年4月22日(火)～6月15日(日)

江戸時代の傑出した出版業者である蔦屋重三郎(1750～1797)は、浮世絵の世界で喜多川歌麿、東洲斎写楽を世に出したことで知られています。本展ではその蔦屋の活動をつぶさにみつめながら、江戸の多彩な出版文化をご覧ください。



いぢにんそうじつぽん
婦女人相十品
ポピンを吹く娘

喜多川歌麿筆
江戸時代・寛政4～5年(1792～93)頃
東京国立博物館蔵
展示期間:
2025年4月22日(火)～5月18日(日)

いぢかわえびぞう
市川鯉蔵の
竹村定之進

東洲斎写楽筆
江戸時代・寛政6年(1794)
東京国立博物館蔵
展示期間:
2025年5月20日(火)～6月15日(日)



開創1150年記念 特別展「旧嵯峨御所 大覚寺 一百花線乱 御所ゆかりの絵画」

2025年1月21日(火)～3月16日(日)

本展では、平安時代後期の仏像の最高傑作のひとつである「五大明王像」(明円作)を初めて5体そろって東京で公開します。また、清和源氏に代々継承された「薄緑」および「膝丸」の伝承をもつ太刀もお見逃しなく。

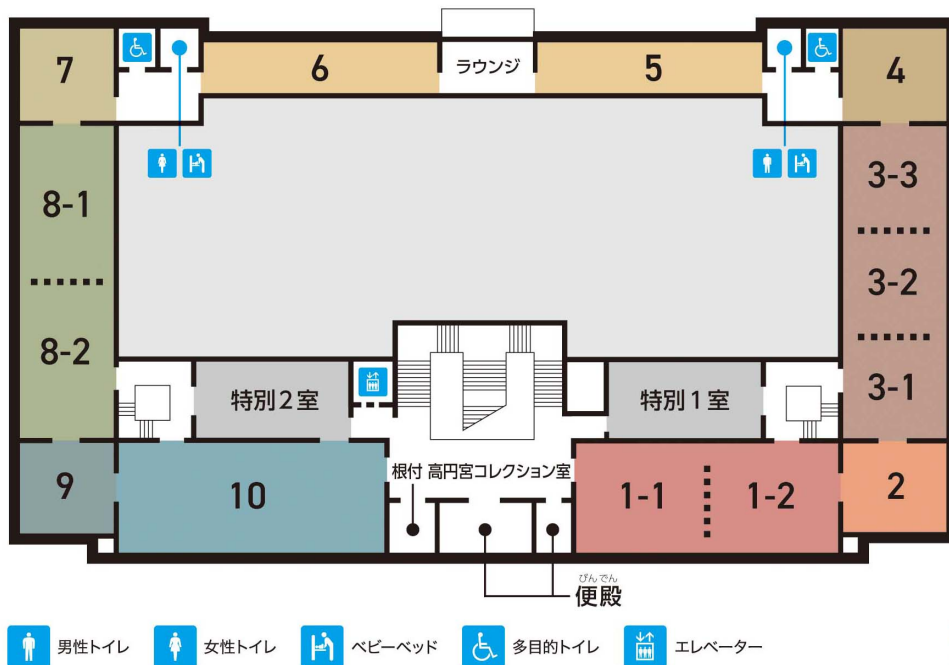


◎五大明王像 明円作 平安時代・安元3年(1177) 京都・大覚寺蔵 通期展示



◎太刀 銘 □忠(名物 薄緑(膝丸)) 鎌倉時代・13世紀 京都・大覚寺蔵 通期展示

特別展紹介(平成館特別展示室)



2 国宝室
2025/1/2(木)-1/13(月・祝)
 ●松林図屏風 長谷川等伯筆 安土桃山時代・16世紀
 お正月恒例の特別公開です

(左隻)

2025/1/15(水)-2/16(日)
 ●和歌体十種 平安時代・11世紀

(部分)

1-2 仏教の興隆
 一飛鳥・奈良

-2025/3/9(日)
 ●興福寺鎮壇具 砂金
 奈良時代・8世紀
 奈良市興福寺中金堂 須弥壇下出土
 地鎮のために興福寺中金堂の地下に埋められた財宝のひとつです

-12/22(日)
 観音菩薩立像
 飛鳥時代・7世紀
 和歌山県東牟婁郡 那智勝浦町那智山出土 北又留四郎氏他2名寄贈

1-1 日本美術のあけぼの
 一縄文・弥生・古墳

-12/22(日)
 土偶
 縄文時代(中期)・前3000~前2000年
 山梨県笛吹市御坂町上黒駒出土 宮本直吉氏寄贈

2025/1/2(木)-6/29(日)
 石見型盾形埴輪
 古墳時代・5~6世紀
 奈良県三宅町石見出土
 儀礼用の盾、もしくは槍先にかぶせた革製のカバーを模した埴輪とする説があります

3-2 宮廷の美術
 一平安~室町

2025/1/2(木)-2/16(日)
 鶴草紙 巻中
 江戸時代・17世紀
 中島宏子氏寄贈
 昔話『鶴の恩返し』とは少し筋の異なる御伽草紙のひとつです

(部分)

書跡
-12/22(日)
 万葉集切 (藍紙本)
 藤原伊房筆 平安時代・11世紀

3-1 仏教の美術
 一平安~室町

-12/22(日)
 日吉山王本地仏 曼荼羅図
 鎌倉時代・14世紀
 比叡山の神々を仏の姿で表します。神の使いである猿も描かれています

2025/1/2(木)-2/16(日)
 仏涅槃図
 鎌倉時代・14世紀

3-3 禅と水墨画 一鎌倉~室町

2025/1/2(木)-2/16(日)
 偈頌
 一休宗純筆 室町時代・応仁元年(1467)
 松永安左衛門氏寄贈

-12/22(日)
 ◎西王母・東方朔図
 伝狩野元信筆 室町時代・16世紀
 旧大仙院方丈障壁画
 中国の仙人を描いた作で元は襖絵でした。鋭い筆法がみどころです

(部分)

5・6 武士の装い —平安～江戸

2025/1/7(火)-3/9(日)

なしじしおのやまきえけぬきがたち
梨地塩乃山蒔絵毛抜形太刀

江戸時代・19世紀



2025/1/2(木)-3/2(日)

しろいとおどしどうまるぐそく
白糸威胴丸具足

江戸時代・17世紀

日の丸が印象的な甲冑。徳川家康に仕えた松平家乗の甲冑と伝わります



4 茶の美術

-12/22(日)

たけいちじゅうおりのはいれめいおんじょうじ
竹一重切花入 銘 園城寺

伝千利休作
安土桃山時代・天正18年(1590)
松平直亮氏寄贈



2025/1/2(木)-3/9(日)

からものかたつきちやいれめいしょうぜん
唐物肩衝茶入 銘 松山

中国
南宋～元時代・13世紀
原田吉蔵氏寄贈

上総大多喜藩主松平家に伝来。江戸時代に一度大火で破損しましたが、漆で忠実に復元されています



7 屏風と襖絵 —安土桃山～江戸

2025/1/2(木)-2/16(日)

しょうかくじんぶつずびょうぶ
松鶴人物図屏風

曾我蕭白筆
江戸時代・18世紀



(部分)

-12/22(日)

いけだのしやくずびょうぶ
池田宿図屏風

渡辺始興筆
江戸時代・18世紀
山下新太郎氏寄贈

『平家物語』の一節。一の谷の合戦で敗れた平重衡の池田宿での情景を描きます



8-1 暮らしの調度 —安土桃山・江戸

-12/22(日)

さびえそめつけあしはくろもんとり
錆絵染付芦白鷺文徳利

京焼・御蔭薩池
江戸時代・17～18世紀



2025/1/2(木)-3/9(日)

まきえうた
蒔絵歌かるた

江戸時代・18世紀

漆塗りに蒔絵の豪華なかるた。遊ぶにしても手荒には扱えません

8-2 書画の展開 —安土桃山～江戸

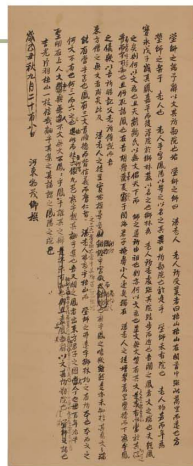
書跡

-12/22(日)

ほうよういんき
鳳陽院記

荻生徂徠筆
江戸時代・17～18世紀
荻生茂樹氏・庄子妙子氏寄贈

儒学者荻生徂徠自筆の書。京都・万福寺塔頭の由来を記したものです



絵画

2025/1/2(木)-2/16(日)

せんめんぜつがはくばい
扇面雑画 白梅

酒井抱一筆
江戸時代・18～19世紀

江戸琳派を代表する画家、酒井抱一が描いた可憐な白梅です



10 浮世絵と衣装 —江戸

浮世絵

2025/1/2(木)-2/2(日)

たからぶねしちふくじん
宝船の七福神

葛飾北斎筆
江戸時代・18世紀

七福神が乗る宝船を描いたおめでたい一図。お正月用に売出されました



2025/2/4(火)-3/9(日)

めいしえどひやうけいかめいどうめやしき
名所江戸百景・亀戸梅屋舗

歌川広重筆
江戸時代・安政4年(1857)



衣装

-12/22(日)

ふりそでしろぬめじかえだけやらいもじもよう
振袖 白紬地楓竹矢来文字模様

江戸時代・18世紀

源氏物語の『若紫帖』をモチーフにした衣装。みやびやかな刺繍が豪華



2025/1/2(木)-2/24(月・休)

うちかけりんずじたちばなまきゆうもよう
打掛 綸子地橘に几帳模様

江戸時代・19世紀

裕福な町方の婚礼衣装。几帳模様は宮廷文化へのあこがれを表しています



9 能と歌舞伎

-12/22(日)

じんばおり
陣羽織

しょうじょうひらしじおりのうほうどうちよう
猩々緋羅紗地応龍波濤模様

江戸時代・19世紀
坂東三津江所用
高木キヨウ氏寄贈

歌舞伎舞台で武将役に用いられる陣羽織は実際の武将よりもいっそう華やかです



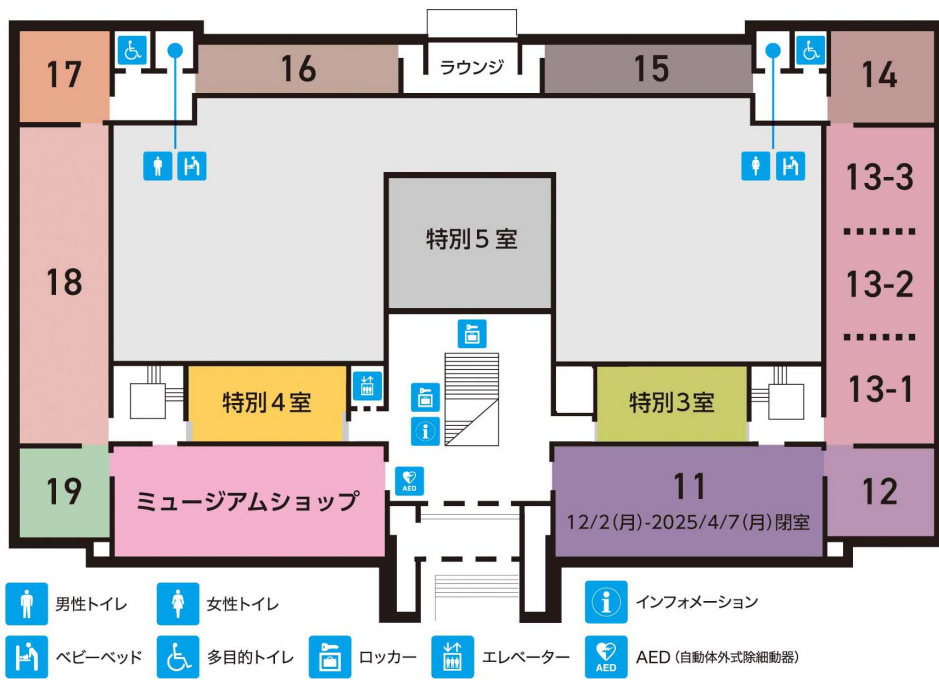
2025/1/2(木)-2/24(月・休)

からおりきんじまつほちよう
唐織 金地松帆船模様

江戸時代・18世紀
上杉家伝来

豪華な金地に吉祥模様である松と帆船を表したおめでたいデザイン





12 漆工

2025/1/2(木)-3/16(日)

りん だう えん もん まき え らいばん
◎竜胆丹文蒔絵礼盤

鎌倉時代・13世紀

法会の際に、導師がすわる座。珍しく錫粉だけで蒔絵されています



2025/1/2(木)-3/16(日)

うめ まき え すすりばこ
梅蒔絵硯箱

室町時代・15世紀



11 彫刻

12/2(月)-
2025/4/7(月)
閉室

2025/4/8(火)より
リニューアルオープン

13-1 金工

2025/1/2(木)-3/23(日)

い せ え び すいてき
伊勢海老水滴

江戸時代・18~19世紀

渡邊豊太郎氏・渡邊誠之氏寄贈

縁起の良い伊勢海老をかたどった水滴で、大きな触角が印象的です



2025/1/2(木)-3/23(日)

ちょうし
銚子

江戸時代・18世紀

13-2 刀剣

2025/1/2(木)-3/16(日)

た ち おさふね かげみつ ごう こ りゅう かげみつ
●太刀 長船景光(号 小龍景光) (→4ページ)

長船景光 鎌倉時代・元亨2年(1322)

長船景光の代表作で、刀身にある龍の彫刻が名前の由来です



2025/1/2(木)-3/16(日)

た ち こ び ぜん ともなり
●太刀 古備前友成

古備前友成 平安時代・11~12世紀 山本達郎氏寄贈

13-3 陶磁

2025/1/2(木)-3/9(日)

ねずみ の せき れい もん ぼち
◎鼠志野鶺鴒文鉢

美濃

安土桃山~江戸時代・16~17世紀

そよ風が吹く川の流れ、岩にとまる鶺鴒がのびのびと表されています。造形、表現ともに優れた一作です



2025/1/2(木)-3/9(日)

いろ え か ちょうもん おお ひかぼち
◎色絵花鳥文大深鉢

伊万里(柿右衛門様式)

江戸時代・17世紀





14 特集

日本の伝統模様「雪」
(→3ページ)

2025/1/2(木)-2/16(日)

そのつけから こ ぬきあそびず りん か せら
染付唐子雪遊図輪花皿

伊万里 江戸時代・19世紀 平野耕輔氏寄贈

おひなさまと日本の人形
(→3ページ)

2025/2/18(火)-3/23(日)

ご しょ にんぎょう
御所人形

うし わかまる
熊坂長範と牛若丸

江戸時代・19世紀



15 歴史の記録

2025/1/2(木)-2/24(月・休)

え ど じょうほん するおもてむき そう え ず
江戸城本丸表向総絵図

江戸時代・19世紀



こうしゅうどうちゅうぶんのべ え ず
◎甲州道中分間延絵図

道中奉行所編
江戸時代・文化3年(1806)
浅草文庫旧蔵

江戸幕府が作成した五街道の絵図80巻のうちの1巻。
宿や街道沿いの様子をご覧ください



(内藤新宿部分)

16 アイヌと琉球

アイヌと北方諸民族

2025/1/2(木)-3/16(日)

もく ぐう
木偶

樺太ウィルタ 19世紀
平子はつ氏寄贈

樺太の民族、ウィルタのまじないの道具で、半人半獣の姿を象ります



2025/2/4(火)-3/16(日)

ぎょ ひ い
魚皮衣

ロシア・沿海州(民族名未詳)
19世紀
黒龍江地学協会寄贈

18 近代の美術

2025/1/2(木)-2/2(日)

び おん
美音

島崎柳塀筆
明治40年(1907)
島崎柳塀氏寄贈



2025/2/4(火)-3/16(日)

きょう まい こ
京の舞妓

速水御舟筆
大正9年(1920)

徹底した細密描写が注目を浴びた作品。モデルは当時人気だった君栄という舞妓です



17 保存と修理

私たちが日焼けをしたり、ケガをしたりするように、文化財も環境によって変化し損傷します。ただし、文化財の損傷は自然にはありません。そのため、変化させない、損傷を予防する取り組みが重要です。「予防保存」のコーナーでは、文化財の損傷要因になる「虫・カビ」「光」「振動」から文化財を守る取り組みをご紹介します。



文化財の損傷を防ぐために工夫された支持具や免振台を展示しています

ミュージアムショップ

ミュージアムショップでは、当館の出版物をはじめ、収蔵品をもとにデザインしたミュージアムグッズを販売しています。



とうきょうこく りつはく ぶつかん
東京国立博物館 エコルセ
《本館》《表慶館》各1,350円(税込)
人気の本館柄に加えて、表慶館柄が新登場! 軽い食感の焼き菓子4種類入っています。クリスマスや年末年始のご挨拶にいかがでしょうか

19 みどりのライオン

体験コーナー (教育普及スペース)

12月2日(月)~2025年2月3日(月)まで閉室し、ハンズオンなどで文化財に親しむ体験コーナーを新設します。さまざまな方に楽しんでいただけるコーナーを目指しますのでどうぞご期待ください。



これまで制作したハンズオンツール例

東京藝術大学大学院インターンによる
スライドトーク
いろ か ちよう ず ひら ばち きっしょうもん ちょう
「色絵花鳥図平鉢」と吉祥文様

日時: 2025年2月4日(火)、6日(木)、
12日(水)、15日(土) 13:20~13:40
解説: 田中佑奈(美術研究科芸術学専攻工芸史研究室)
会場: 本館地下1階 みどりのライオン

*詳細は当館ウェブサイトをご確認ください



特別 3室 日本美術のとびら

(体験型展示スペース)

「みる」「たのしむ」「かんじる」の3つのコーナーで文化財にもっと親しんでいただくスペースです。デジタル年表や高精細複製品などをみて、体験することで、人から人へ受け継がれてきた文化財の魅力を間近で体感できます。

複製品は季節に合わせて展示替えを行います



海外ミュージアムに 学ぶ、つながる、その後

当館は今年度、(公財)上廣倫理財団の助成を受けて、文化の拠点として名高い海外ミュージアムの先駆的な取り組みやコロナ禍以降の変化などを調査し、改めてネットワークを構築する目的で職員を派遣しています。



大規模リニューアルを経て、2013年に再開館したアムステルダム国立美術館

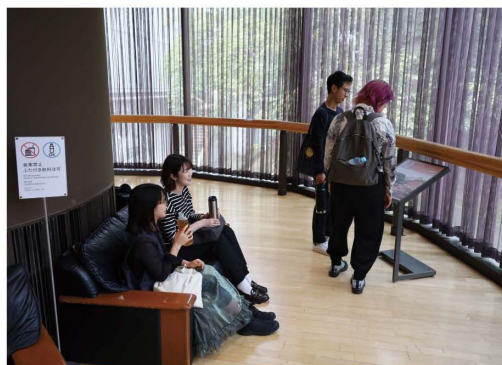
今回の調査で私たちのグループはドイツ、オランダ、ベルギーのミュージアム20館以上を訪れました。

オランダのアムステルダム国立美術館で、アジア美術展示を担当するメンノ・フィツキ氏に伺った「大切なことは、来館者がいちばん知りたいことは何かを追求すること」という考え方が、とても印象的でした。その意識の高さに学び、今後の仕事に活かしたいと思いを新たにしたところです。

広大な各施設を周るなかで、ふと気になったのは当館の休憩事情です。東京ドーム2.2個分の広さという東博の敷地には6つの展示館があり、丁寧にみていたら数時間はあっという間です。しかし文化財の安全のため展示室では飲食禁止、ちょっと休憩と思ったタイミングに、屋内で水分をとりつつ休憩できる場所は相当限られていました。

そこで帰国後に関係部署と相談し、屋内でも文化財に影響のないところでは、水筒・ペットボトルなどフタが閉まる容器からの水分補給は可とするエリアを増やすこととなりました。こまめな水分補給で休憩をとりつつ、心ゆくまで東博の展示をお楽しみください。

(高木結美)



今年夏から増えた当館の「水分補給可」エリア

東博のお仕事

博物館の活動は、展示や催し物、文化財の調査研究や保存、情報アーカイブなど、多岐にわたります。当館の多様な活動に関わる人たちの仕事を、さまざまな角度からご紹介します。

3 環境整備



山宮 康平 環境整備課係長

サウナと音楽が好き。バンドも細々とやっています。いつも笑顔で支えてくれる妻・子どもたちに感謝しています。

収蔵・展示・観覧・執務、 さまざまな『環境』を整える

貴重な文化財の収蔵をはじめ、当館に来館する人、働く人、それぞれに適切な環境が提供できるよう整備しています。

整備方針の企画・立案

「今後、当館に必要な空間は何か」を、お客様の声・時代のニーズ・トレンドなどを踏まえながら、検討しています。大きな整備方針の決定に携われること、成果が形として残ることも、この仕事の魅力のひとつです。新たに建物を建てるだけでなく、空きスペースを有効に活用するスペースマネジメントも積極的に実施しています。

収蔵庫の温湿度管理

文化財の保存や展示において常に支障のない環境を維持することが求められます。収蔵庫では、温度はもちろんのこと、湿度についても厳しくコントロールしなければなりません。その環境を実現するために、収蔵庫内が目標の温湿度に収まるよう、空調機器の稼働状況を日々管理しています。



大型空調機器更新の様子。限られた運搬ルートで計画的に、安全に進めています

大規模改修

建物本体よりも設備機器の耐用年数は短いため、老朽化した空調機器などを計画的に更新する必要があります。工事を実施する際は、準備と制限がかなりかかります。そのため、館内の活動に影響が生じないよう工事を監理し、工程を検討することも、私の重要なミッションです。



本館地下機械室内の様子。建物の血管ともいえる配管が縦横無尽に張り巡らされています



自在蛇置物 宗義作 昭和時代・20世紀

「宗義」の銘があります



2024 - 2025年12・1・2月号

今号のイチ推し!

自在蛇置物

2025年1月2日(木)～1月26日(日) 本館特別1・2室

(特集 博物館に初もうで ―ヘビ～なパワ～を巳たいの蛇! ―)(→2ページ)

甲冑師伝統の手業が光る、生き生きとした表現

爛々と輝く鋭い目。ひんやりと冷たく、ざらつくような肌。大きさといい、質感といい、暗がりに現れた本物の蛇をみているかのようです。口が開閉でき、牙や舌までつくられた頭部の細工や、蛇腹の表現なども実に迫真的です。

しかしながら、この蛇の本物らしさはそれだけではありません。体が本物の蛇さながらに動くようになっており、とぐろを巻いたり、くねらせたりすることができるのです。おみやげで売られているゴムヘビを思い起こさせますが、この蛇はそんなチープなものではありません。鉄でつくられていてずしりと重く、それでいて驚くほど滑らか且つしなやかに動かすことができるのです。

まさに自由自在に動かすことのできる、金属でつくられたこうした器物は、自在置物とよばれており、江戸時代から近代にかけて盛んに製作されました。蛇や龍のように体がくねる動物(架空のものも含む)、昆虫や海老のような節足動物の作例が多く、他にも鯉や鷹などが知られています。

この蛇の場合は、内側に入る方を若干すばませ、外側に出

る方を鱗の形に表した円筒形の部材を、部位によって太さを変えながら順に差し込んでいき、これらを鉋でつないで、体の部分を形づくっています。内側に入る部分では周囲に隙間(遊び)をつくり、内側を鉋で固定して連結することで、部材同士の隙間を利用して、自在な動きを可能にしています。部材の数は頭部を除き、大小合わせて実に222個に及び、細やかな細工が、より自然な動きへとつながっているのです。

このような高度な技術は、江戸時代の甲冑師からはじまったとされ、当館が所蔵する自在龍置物に「明珍宗察」、東京・大倉集古館所蔵の自在蝶置物に「明珍宗安」の作者銘があり、甲冑師の一派として名高い明珍派の関与が認められます。

本作品は、能登に出自を持ち京都で活躍した富木派の流れを汲む宗義こと田中唯吉の作で、近年「超絶技巧」ともてはやされる近代の輸出工芸との関連が深い品ですが、そこには江戸時代の甲冑師の手業が確実に継承されているのです。

(清水健)

●開館時間

9時30分～17時00分

毎週金・土曜日、2025年1月12日(日)、2月23日(日・祝)は9時30分～20時00分

黒田記念館は9時30分～17時00分 ※入館は閉館の30分前まで

●12・1・2月の休館日情報

◎12月2日(月)、9日(月)、16日(月)、17日(火)、23日(月)～31日(火)

◎1月1日(水・祝)、6日(月)、14日(火)、20日(月)、27日(月)

◎2月3日(月)、17日(月)、25日(火) ※2月10日(月)は臨時開館します。

※特別展、総合文化展、催し物につきましては、今後の諸事情により予告なく変更する場合がございます。最新情報は、当館ウェブサイトなどをご覧ください。

●休館・閉室情報

12月17日(火)は設備保守点検のため、臨時休館します。

12月23日(月)～2025年1月1日(水・祝)は休館します。また、展示室の一部を以下の通り閉室します。

◎本館11室：12月2日(月)～2025年4月7日(月)

◎本館12～18室・特別4室：12月2日(月)～2025年1月1日(水・祝)

◎本館19室：12月2日(月)～2025年2月3日(月)

●観覧料金

一般 1,000 円、大学生 500 円

障がい者とその介護者各1名は無料。

満70歳以上、高校生以下および満18歳未満の方は無料。特別展などの開館日・開館時間、観覧料金は別途ご確認ください。



東京国立博物館
ウェブサイト
<https://www.tnm.jp/>

●賛助会のご案内

東京国立博物館の運営趣旨にご賛同いただける方を対象とした寄附会員制度です。個人と団体向けに、それぞれ寄附金額に応じた特典をご用意しています。

●トーハクキッズデー

今年度最後のキッズデーを2025年1月26日(日)に行います。特集「日本の伝統模様『雪』(→3ページ)」に関連して、さまざまな雪の模様に親しんでいただくためのプログラムやワークシートも予定しています。キッズデーの詳細については、決まり次第当館ウェブサイトに掲載します。



今年度7月のキッズデーに実施した「ひいながたぬりえ」の様子

●託児サービスのご案内

正門プラザ内託児室にて、託児サービスを実施しています(有料。事前予約制)。当日空きがあれば、予約なしでご利用いただくことも可能です。



●特別展チケットプレゼント

特別展「篤屋重三郎 コンテンツビジネスの風雲児」(→5ページ)の無料観覧券(10組20名様)をプレゼントします。締切は3月10日(月)必着。
*プレゼントの応募方法 はがきに郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、ならびにこの号で一番おもしろかった記事をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって代えさせていただきます。
〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 広報室「ニュース 12-2月号」プレゼント係



本館

ミュージアムショップでは、さまざまなミュージアムグッズを販売しています。ご来館の記念に、またご家族やご友人へのお土産にどうぞ。



東洋館

オンラインショップも、ぜひご利用ください。



正門プラザ



ホテルオークラレストラン ゆりの木



カフェ ゆりの木

博物館構内で食事・喫茶をお楽しみいただけます。ぜひ皆様の憩いの場としてご利用ください。



ホテルオークラ ガーデンテラス